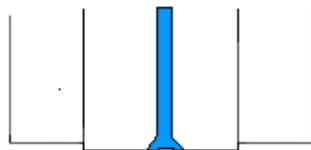


(7) 新しい材料で隙間を埋めた。



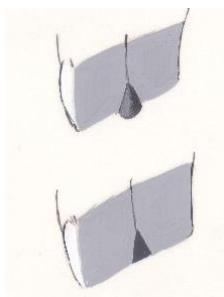
### 結果

食事をして隙間は減らなくなつたが、楽器も鳴らなくなつた。

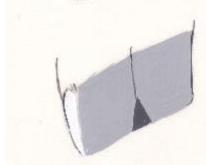
(これから10年以上、ベストの状態を作るための作業が、永井哲夫博士の協力と指導を得て行われることになる。)

(8) 詰めた所が障害となり息がスムーズに流れないと思えたので、埋めた下の部分を薄く平らにした。

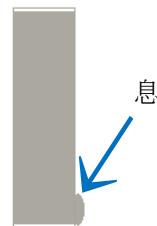
削る前



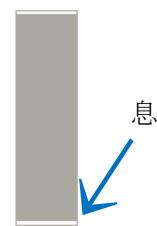
削った後



歯を横から見た図



削る前



削った後

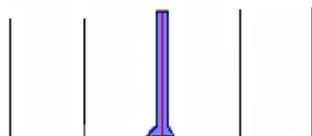
### 結果

低音から唇を変化させないで高音のB音まで出た。

\* 息の流れがこの隙間に集中する事を確信した。



(9) つめた裏側にたての溝を入れ、下の数ミリは更に薄くした。



普通の歯並びは、縦に溝が出来ている状態で、この溝に沿って息が流れると考えた。

### 結果

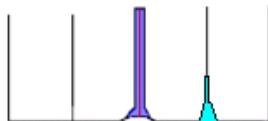
息の流れがスムーズになり音が安定した。高音だけでなく低音も出しやすくなった。

練習の成果が表れる唇のように感じた。

C音が唇を変えずに出了。更に、D音も小さな音で出了。



(10) 上前歯 2 本の横にあった隙間を埋めた。



(横を埋める前)



息を中央に集めるためには、歯の両サイドも塞いだ方が良いと考えた。

### 結果

息のコントロールはやや楽のように思えた。

2 本の歯が固定されるので違和感があった。

隙間が浅い場合は、低音では影響が少なく、高音は唇を中央に寄せることにより隙間が塞がるので、埋め直しはしなかった。



(10 年以上前に詰め下部が欠けた状態。) 2005 年 9 月 撮影



唇を中心寄せ、隙間を塞いだ状態

次回は問題が発生した報告